

2019年度第2回理事会報告

8月8日(木)第2回理事会は、あさひかわ福祉生協倉島理事の議長選出後、麻田会長からのご挨拶のあと、審議が進められました。議決事項①2019年度役員報酬の件②北海道労済堀江理事の退任に伴う理事会オブザーバー(佐藤 敏行専務)参加の件③(経理指導及び税務申告書作成に関する)業務委託契約先変更の件④JA北海道中央会からの「北海道胆振東部地震」に関わる広告協賛・ビデオメッセージ協力依頼の件について確認されました。審議事項①協同組合ネット北海道準備会活動について、経過報告及び来年3月発足式実施、9月18日(水)「堤 未果公開講演会」共催、9月25日(水)社会貢献事業活動交流企画について確認されました。②LPガス問題の取り組みについて、新学習パンフの活用での学習会の促進、行政の懇談会での意見表明、マスコミへの情報提供について確認されました。③ゲノム編集技術を応用した食品問題への対応について、消費者の選択する権利である表示を求める対応と消費者へのリスクコミュニケーションを求める活

動に協調することが確認されました。④2020NPT再検討会議への生協派遣団の支援について、国連本部での『原爆展』などの被爆者支援活動と会員生協派遣団への支援について確認されました。報告事項は①一般活動経過報告②道連総会報告③第一四半期決算報告では当期純損益は283,382円と予算範囲での進行です。④労福協「政策・制度改正要請」への参画⑤福祉問題を総合的に考える委員会報告ではこども食堂ネットワークの到達点について35の運営者・道・札幌市などが参加、財政でも「全労済」「北海道労働金庫」「ゾンタクラブ」「コープ共済連」からの助成をうけ、支援者をふやすための費用や全道規模の交流会開催など広がっていること⑤コープさっぽろ・北海道労金・道連の役員懇談会開催報告⑦ヒバクシャ国際署名の取り組み報告⑧大学生協理事長会議協賛の件⑨北海道有機農業研究会学習会協賛の件⑩日生協消費税増税学習会参加報告⑪北海道奨学金ネットワーク幹事団体会議に関し報告がなされました。

北海道労働者共済生活協同組合「第66回通常総代会」およびこくみん共済coop〈全労済〉北海道推進本部「第2回組合員代表者会議」を開催しました

7月29日(月)、北海道労働者共済生活協同組合「第66回通常総代会」およびこくみん共済coop〈全労済〉北海道推進本部「第2回組合員代表者会議」をホテルポールスター札幌にて開催しました。

今総代会(組合員代表者会議)には総代(組合員代表者)130名中、書面議決を含む110名が出席し、総代会では「2018年度事業報告・決算報告」「2019年度事業計画・予算設定」「総合(慶弔)共済事業規約の一部改正」など全11議案、組合員代表者会議では「2018年度北海道推進本部推進活動報告」「2019年度北海道推進本部推進活動計画」など全3付議事項について審議がされ、全体で承認されました。

なお、今総代会(組合員代表者会議)は役員改選期にあたり、役員選挙結果にもとづき同日開催された第1回理事会(第1回代表委員会)において、新理事長(本部長)に大出彰良氏が選出されました。

2018年度では、こくみん共済coop〈全労済〉のあらたな中期経営政策「New-Zetwork(2018年度～2021年度中期経営政策)」がスタートしました。変わることのない理念と信条のもと、「お役立ち」発想と「共

創」活動で、労働者自主福祉で培ってきた事業と運動をさらに強化・発展させるため、取り組んでいきます。

また、「全労済」は創立60周年を節目に、さらに多くの方々に親しんでいただき、愛される存在となるため、新しい姿を表す愛称として「こくみん共済coop」を定め2019年6月より活用を開始しております。

これまで大切にしてきた「たすけあい」の仕組みや活動を、あらためてお伝えし、より多くの皆さまと一緒に、「たすけあいの輪」をむすび広げてまいります。



“語り継ぐ”ことへの思い

「戦争の記憶を語り継ぐ集い」は今年で16回目の開催となりました。

第1部では、毎年協力をいただいている方々よりお話をして頂きました。

亀川正子さんからは、「さがしていますーピカドンのあとから」と題して、広島で被爆をした、弁当箱やメガネ、手袋などの「ものたち（遺品）」が語りかける、「失われた日常、被爆者の声、平和を願う思い」を著したアーサーピナードさんの作品「さがしています」の朗読。藤井紀子さんからは、「一枚のかけぶとん」と題して、1945年7月14日～15日に亘り軍需産業の生産地を中心に行われた「北海道空襲」の記録の中から「根室空襲」についてお話をいただきました。植松憲二さんからは、開催日が8月6日（広島原爆の日）ということもあり、その日広島に何が起こったのか、広島や長崎に投下された原爆はどんなものだったのか、それによりどれだけの被害、犠牲者が出たのか等について「峠三吉碑文」をあわせ読みながら詳しくお話をいただきました。

た。

第2部では、「憲法」に起ころうとしていること。「戦争を怖がらない世代」。

「非核三原則、核拡散防止条約、核兵器禁止条約」と日本の立ち位置。医療生協が目指す「健康で安心の暮らし」、私たちの日常は「平和」の中でしか成り立たない。

「昭和の大人が令和に伝えなければならないこと」について「提起・意見交換」を行いました。終了間際には「原爆を許すまじ」を合唱したいとの声が出るなど、熱い思いや意見が溢れた中で閉会しました。終戦から74回目の夏を迎え、戦中・戦後の時代を体験してきた方々が少なくなってきました。「語り継ぐ」ことが年々難しくなっていることを参加の皆さん共々感じていますが、「来年もまた」の声も上がるなど「語り継ぐ」意義を改めて共有した1日でした。

北海道医療生協 地域支部協議会代表 阿部廣洋

北海道SDGs推進プラットフォームが 発足しました！

7月24日、コープさっぽろ本部（札幌西区発寒）に、趣旨に賛同いただいた企業・協同組合・行政・大学などから約40人が集まって、「第一回SDGs推進委員会」が開かれ、北海道SDGs推進プラットフォームがスタートしました。

会は、呼びかけ団体であるコープさっぽろ執行役員の横澤組織本部長の挨拶ではじまり、コープさっぽろ大見理事長から基調報告として本プラットフォーム推進の趣旨について提案があり、続いてコープさっぽろ組織本部の鈴木さんからコープさっぽろが推進しているSDGsの取り組み報告がありました。

協同組合関係からは、北海道労金・JA中央会・ホクレン・漁連・北海道生協連からの参加があり、参加したJAさんからは「コープさっぽろさんの本気度と取り組みの拡がり・消費者に深く根付いた活動で

あることが分かりました」との感想が寄せられました。

趣旨に賛同しSDGs推進委員会の委員になって頂いた組織は、株式会社アレフ・花王グループカスタマーマーケティング株式会社・キュウピー株式会社・札幌市・サッポロビール株式会社・サントリーフーズ株式会社・下川町・凸版印刷株式会社・株式会社ニトリパブリック・ホクレン農業協同組合連合会・北海道漁業協同組合連合会・株式会社北海道新聞・北海道放送株式会社・北海道労働金庫・酪農学園大学・コープさっぽろの16組織でした。次会の委員会は10月18日に開催することを確認して会は終了しました。北海道における、幅広いSDGs活動推進の牽引役となることが期待されます。